

幼児教育の質の向上に向けて ～社会に開かれた幼児教育カリキュラム～

文部科学省初等中等教育局
幼児教育課長 大杉 住子



文部科学省

我が国のカリキュラムの質を支えるもの

1 8歳までを見通したカリキュラムの一貫性

- 幼児期から高等学校までを見通して教育課程の基準の在り方を議論
- 学びのプロセスの質に着目し、学校種や教科等を越えてカリキュラム編成の共通基盤を整理

- ・資質・能力の3つの柱
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・社会に開かれた教育課程



生活や学びの違いをつなぐ工夫

- 交流行事や合同研修など、子供同士や教員同士の交流・相互理解を促す取組
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有など、発達段階に応じた教育の特質について理解を促す工夫
- 一人一人の生活や学びの過程で考えられる困難さと指導上の工夫の共有



実践と理論の往還

- 園内・校内研修を通じた不断の指導改善
- 各自治体の指導主事やアドバイザーによる巡回指導、調査官による指導主事やアドバイザーの能力向上支援
- 大学等研究機関による、実践を基盤とした研究成果の普及と実践への反映

国際連携

- アジア圏等における、我が国の幼児教育の特質を生かした国際貢献
- 学習指導要領等の策定過程において、OECDとも政策対話を実施
- ECECネットワークから得られた知見の政策への反映

幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整え、一人一人の資質・能力を育んでいくことは、教職員をはじめとする幼稚園関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から幼児や幼稚園に関わる**全ての大人**に期待される役割である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、

よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、

それぞれの幼稚園において、幼児期にふさわしい生活をどのように展開し、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、

社会との連携及び協働によりその実現を図っていく

という、**社会に開かれた教育課程**の実現が重要となる。

幼児教育の質保障

- 幼児期の教育は「教育基本法」において、「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」とされている。

教育基本法（抄）（平成18年12月22日公布・施行）

第十一条

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

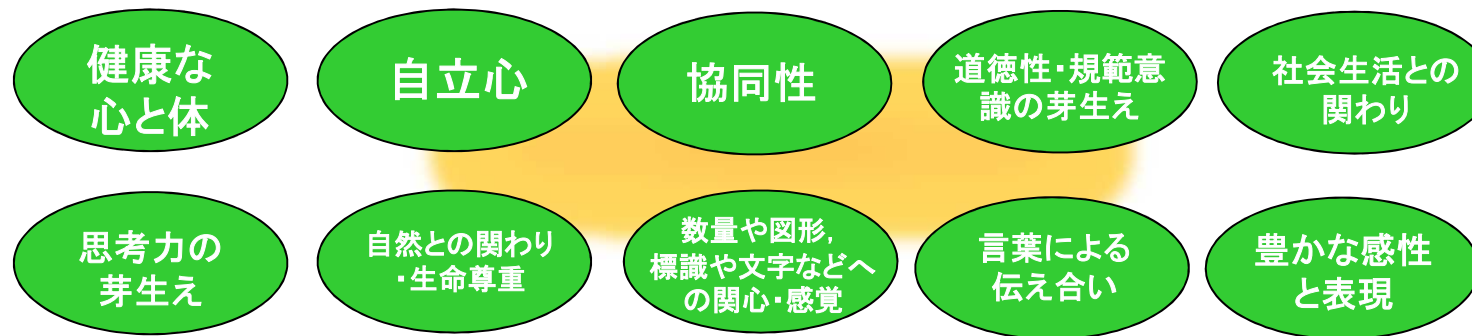
- 幼児教育から義務教育、高等学校教育までを見通して、生活や学習に必要な資質・能力が育まれるよう、幼児教育段階では次のような点について、施設類型を問わずに共通に告示している。
 - ・次に掲げる資質・能力の基礎を一体的に育むことを明示。



- ・小学校以上の教職員との連携や、地域、家庭等との連携の手がかりとするため、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿を明確化。

幼児教育・保育の質を、施設類型を問わずに保障するために

- 小学校以上の教職員との連携や、地域、家庭等との連携の手がかりとするため、**幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿を明確化。**



- なお、小学校学習指導要領においても、幼児期の学びから小学校教育に円滑に移行できるよう、**各教科等の指導において、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮することが求められている。**

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1)健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2)自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3)協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4)道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5)社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にしたい気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

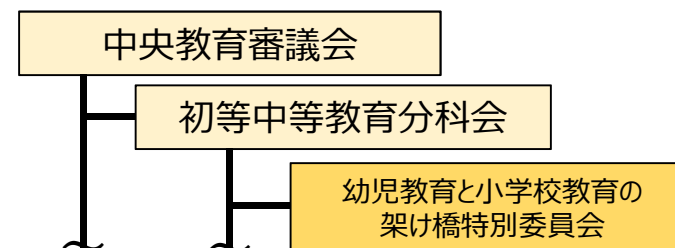
心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼児期の生活や学びに関する、プロセスの質の保障に向けた課題

- (1) 幼児教育の質に関する認識の共有
- (2) 発達段階に応じた特性に配慮しつつ、0～18歳まで見通して学びの連続性を確保するための手立ての不足
- (3) 格差なく学びや生活の基盤を育むことの重要性と多様性への配慮
- (4) 幼児教育の質を保障するために必要な体制等
- (5) 教育の機会が十分に確保されていない家庭や子供への支援

幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会について

- 幼児教育の質的向上及び小学校との円滑な接続について専門的な調査審議を行うため、初等中等教育分科会の下に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を設置（令和3年7月8日初等中等教育分科会決定）
- 具体的には、以下の事項について検討
 1. 生活・学習基盤を全ての5歳児に保障するための方策
 2. 各地域において幼児教育を着実に推進するための体制整備
 3. 保護者や地域の教育力を引き出すための方策、保育人材の資質能力の向上といった幼児教育の質的向上及び小学校教育との円滑な接続を図る上で必要な事項



【委員一覧】※敬称略・五十音順

- | | | | |
|------------------|---|----------|-----------------------------------|
| ・ 秋田 喜代美 | 学習院大学文学部教授、東京大学名誉教授 | ・ 水野 達朗 | 大阪府大東市教育委員会教育長 |
| ・ 荒瀬 克己 | 独立行政法人教職員支援機構理事長 | ・ 溝上 慎一 | 学校法人桐蔭学園理事長、桐蔭横浜大学学長・教授 |
| ・ 石戸 奈々子 | 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授、CANVAS 代表 | ・ 宮下 友美恵 | 学校法人静岡豊田学園 静岡豊田幼稚園長 |
| ・ 榎本 和生 | 東京大学大学院理学系研究科教授 | ・ 無藤 隆 | 白梅学園大学名誉教授 |
| ・ 大竹 文雄 | 大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授 | ・ 村田 伊津子 | 岐阜市子ども・若者総合支援センター“E-ルぎふ”所長 |
| ・ 岡林 律子 | 高知県教育委員会事務局幼保支援課専門企画員 | ・ 吉田 信解 | 埼玉県本庄市長 |
| ・ オチャンテ村井ロサメルセデス | 桃山学院教育大学人間教育学部人間教育学科准教授 | ・ 渡邊 一利 | 公益財団法人笹川スポーツ財団理事長 |
| ・ 神長 美津子 | 大阪総合保育大学児童保育学部特任教授 | ・ 渡邊 英則 | 学校法人渡辺学園 認定こども園ゆうゆうのもり幼保園長、港北幼稚園長 |
| ・ 久保山 茂樹 | 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター 上席総括研究員(兼)センター長 | | |
| ・ 黒木 定藏 | 宮崎県児湯郡西米良村長 | | |
| ・ 齋藤 孝 | 明治大学文学部教授 | | |
| ・ 鈴木 みゆき | 國學院大学人間開発学部教授 | | |
| ・ 曾木 書代 | 社会福祉法人龍美 陽だまりの丘保育園長 | | |
| ・ 田村 学 | 國學院大学人間開発学部教授 | | |
| ・ 中井澤 卓哉 | 筑波大学教育学類4年、(一社)ひとと代表理事 | | |
| ・ 中山 昌樹 | 学校法人中山学園理事長 | | |
| ・ 二宮 徹 | NHK解説主幹 | | |
| ・ 平川 理恵 | 広島県教育委員会教育長 | | |
| ・ 藤迫 稔 | 大阪府箕面市教育委員会教育長 | | |
| ・ 堀田 龍也 | 東北大学大学院情報科学研究科教授、東京学芸大学大学院教育学研究科教授 | | |

【オブザーバー】

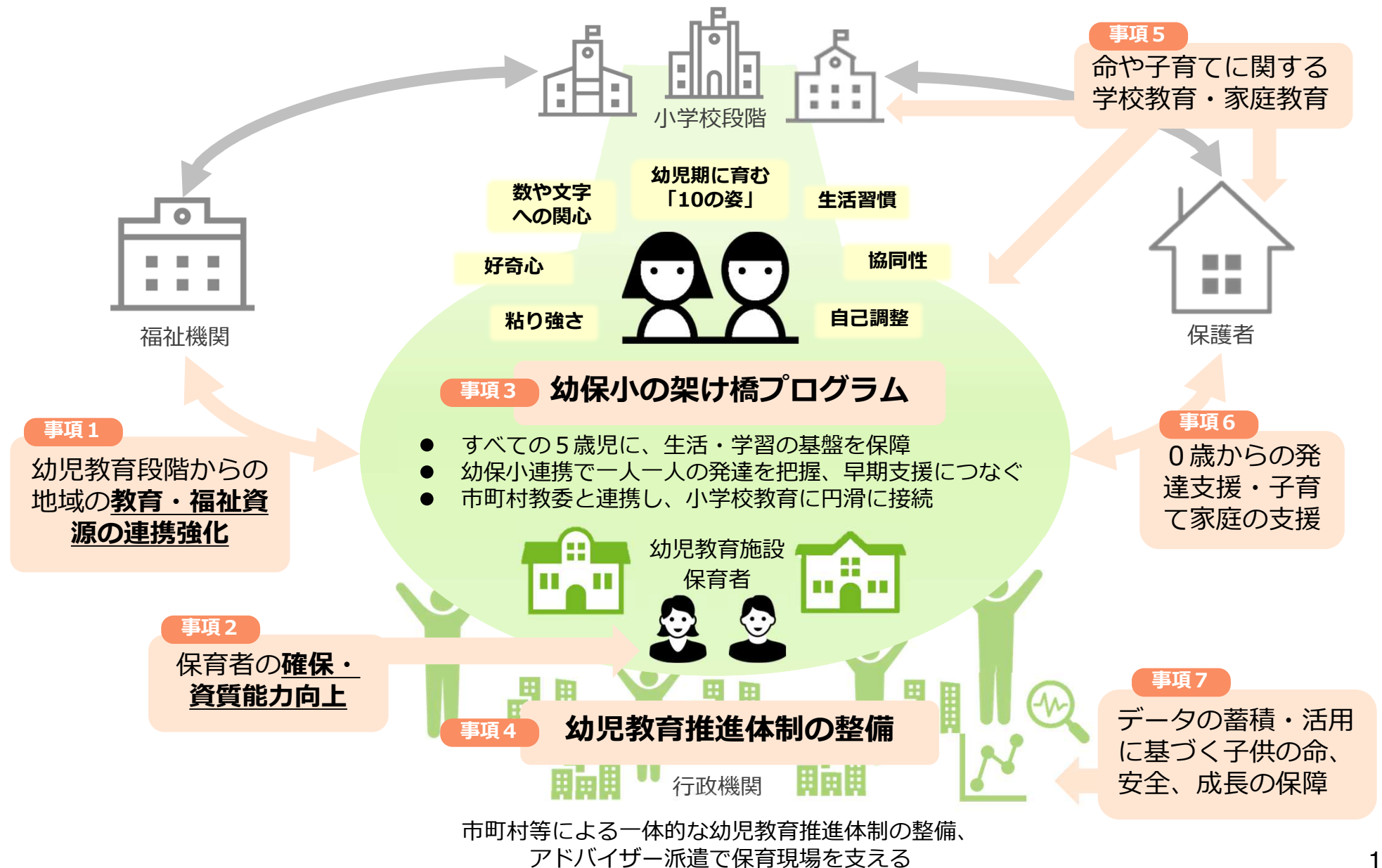
- ・ 内閣府子ども・子育て本部参事官付（認定こども園担当）
- ・ 厚生労働省子ども家庭局保育課
- ・ 全国国公立幼稚園・こども園長会
- ・ 全日本私立幼稚園連合会
- ・ 公益社団法人全国幼児教育研究協会
- ・ 全国連合小学校長会
- ・ 日本私立小学校連合会
- ・ 社会福祉法人日本保育協会
- ・ 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育協議会
- ・ 公益社団法人全国私立保育連盟
- ・ 特定非営利活動法人全国認定こども園協会
- ・ 一般社団法人全国認定こども園連絡協議会
- ・ 認定こども園連盟

目指す方向性（たたき台）

- (1)「社会に開かれた幼児教育カリキュラム」の実現に向けた、
幼児教育の質に関する認識の共有
- (2)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と各園や地域の
創意工夫を生かした幼保小の架け橋プログラムの開発・実践
- (3)全ての幼児のウェルビーイングを高めるカリキュラムの実現
- (4)幼児教育推進体制等の全国展開による、幼児教育の
質の保障と専門性の向上
- (5)地域における幼児教育施設の役割の認識と
関係機関との連携・協働等

幼児教育スタートプランのイメージ

以下の事項を、幼児期の教育に関する基本的な計画として位置付け、一体的に実行することで、子供の未来への架け橋となる社会システムを構築。



幼児教育推進体制・活用強化事業の主な成果

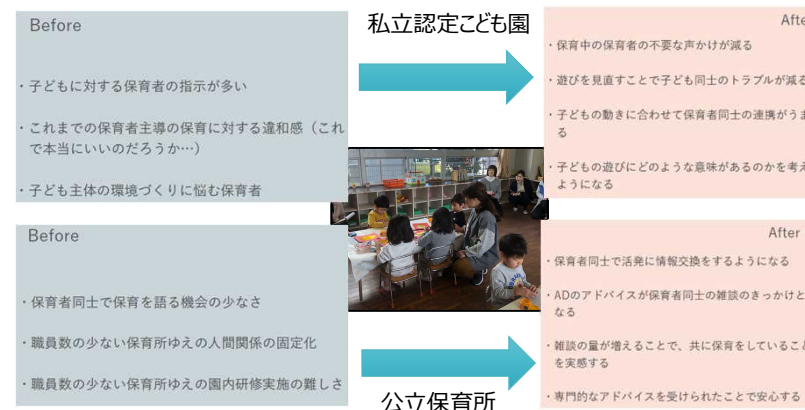
○ 幼保小連携の取組の充実・深化



教委主催の園小連携協議会で、小学校区単位（小1担任と幼保の園年長担任）でグループを作り、カリキュラム等の打合せ・協議の例（写真左）など管理職のみならず**担任レベルでも具体的な連携が促進**。幼小両免許を持つ教員が幼稚園側、小学校側双方に配置されている例もある。

○ 園種問わない幼児教育の質向上

幼稚園のみならず、**公私立の認定こども園や保育所も含めた園種問わない幼児教育の質向上の取組促進**



○ 小学校教育との接続を見据えた幼児期の教育の研究推進

小学校教育との接続も見据え、教委が主導した**園種問わない幼児教育施設を活用した幼児期の教育の研究推進**、域内幼児教育施設への普及。

○ 0歳からの学びの研究（園環境を活用した新たな生活や遊びの創造（市教委））

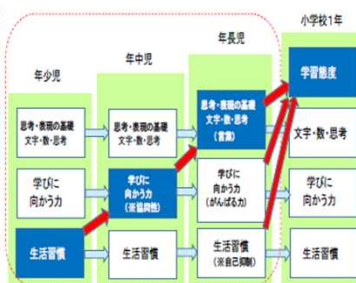


【0歳児】

【2歳児】

【4歳児】

○ 幼小中一貫教育の取組の推進（市教委）



幼保小接続（学園共有）
保幼こども園、小中教員、保護者との連携
※中学校区内の公私立幼保こども園、小中学校を学園という。

思考・表現の基礎（文字・数・思考）
思考力の芽生え、数量や図形、標識や文字などへの関心
学びに向かう力
好奇心、協同性、考えを伝える力、がんばる力など
生活習慣
自立心、道徳性・規範意識の芽生え、健康な体、社会生活との関わりなど



学園推進委員会を定期的に実施

○ 上記のほか、特別支援教育や要保護児童等に関する幼児教育施設と小学校との円滑な連携の取組例が見られる。

色水遊び

3歳



- ・ 保育者が準備した絵具等
- ・ 色の種類は1～2色
- ・ 単色の色の美しさを楽しむ

など

5歳



- ・ 植物をすりつぶすなど、自分達で色水の材料づくり
 - ・ 色の濃淡の調整
 - ・ 色を様々に混合
 - ・ 自分のつくりたい色を追求
- など

砂場遊び

3歳



- カップケーキに見立てて、砂場の砂をカップに入れて遊ぶ
- 没頭、集中して遊ぶ
- 繰り返し遊ぶ中で、砂の性質を知る

など

5歳



- 道具を使って水路づくり
- 穴の深さの調節
(高→低に流れる水の性質)
- 試行錯誤 (水の流れ方等)
- 目的実現に向けて協力
(穴掘りと水運搬の役割分担、
穴の深さの意見交換 等)
など

物語を楽しむ

3歳、4歳



- ・読み聞かせを通して、絵本の世界を楽しむ
- ・劇遊びでは、役になりきり、体で表現する
- ・発表会で物語を見る人に伝える楽しさ

など

5歳



- ・自分達で撮った写真を使って物語づくり
 - ・自分達だけの物語を考える
 - ・考えたことを体で表現して写真撮影
 - ・音の入れ方や画面操作を工夫
- など

スタートカリキュラムの編成の仕方・進め方が分かる

スタートカリキュラム スタートブック

必携!



文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月

「スタートカリキュラム スタートセット」 (国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年2月)

スタートカリキュラムとは、小学校へ入学した子供が、幼稚園、保育所、認定こども園などの遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム。

次期プロジェクト（デジタルワールドにおける幼児教育・保育の在り方）に向けた期待

○幼児期の学びや生活への影響

○園や家庭、地域において配慮すべきこと

○幼児の体験を豊かにするためのデジタル活用の在り方

など